

第3回 世界エンジニアリングデー記念シンポジウム

SDGsの達成に必要なこと

2022年3月4日

損保ジャパン サステナビリティ推進部 シニア・アドバイザー
明治大学経営学部 特任教授
関 正雄

本日お話しすること

- システムレベルの大変革
- マルチステークホルダーでの共創的解決

WBCSDの Vision 2050

「大変革」の時



日本語訳が
WBCSDのHPか
らダウンロード
可能

<https://www.wbcsd.org/Overview/About-us/Vision2050>

(注) WBCSD (World Business Council for Sustainable Development)
持続可能な発展のための世界経済人会議

3 pressing global challenges (= Imperatives)

- Climate Emergency ⇒ Climate 気候変動
- Nature in Crisis ⇒ Nature 生物多様性
- Mounting Inequality ⇒ People 貧困・格差

変革の道筋 × 発想の転換 × イネーブラ

- エネルギー
- 交通・輸送とモビリティ
- 生活空間
- 製品と物質・材料
- 金融商品・サービス
- コネクティビティ
- 健康とウェルビーイング
- 水と衛生
- 食料

- 刷新 Reinvention
- リジリエンス Resilience
- 再生 Regeneration

- イノベーションと技術
- 金融と投資
- 個人と消費
- 政策と規制

= **トランスフォーメーション**
(大変革 = システム変革)

Vision 2050のポイント

- 2年をかけ、多様なステークホルダーとコンサルテーションを行って策定
- 世界が必要としている「Transformation=大変革」を成し遂げるための方策を提言
- 3つの地球規模課題に、統合的に取り組む必要性を強調
- システムレベルの大変革には、バックキャストイング・アプローチが不可欠
- SDGs の達成のためには、こうした視点は極めて重要

SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム

Solution-Driven Co-creative R&D Program for SDGs(略称:SOLVE for SDGs)



プログラムの目標

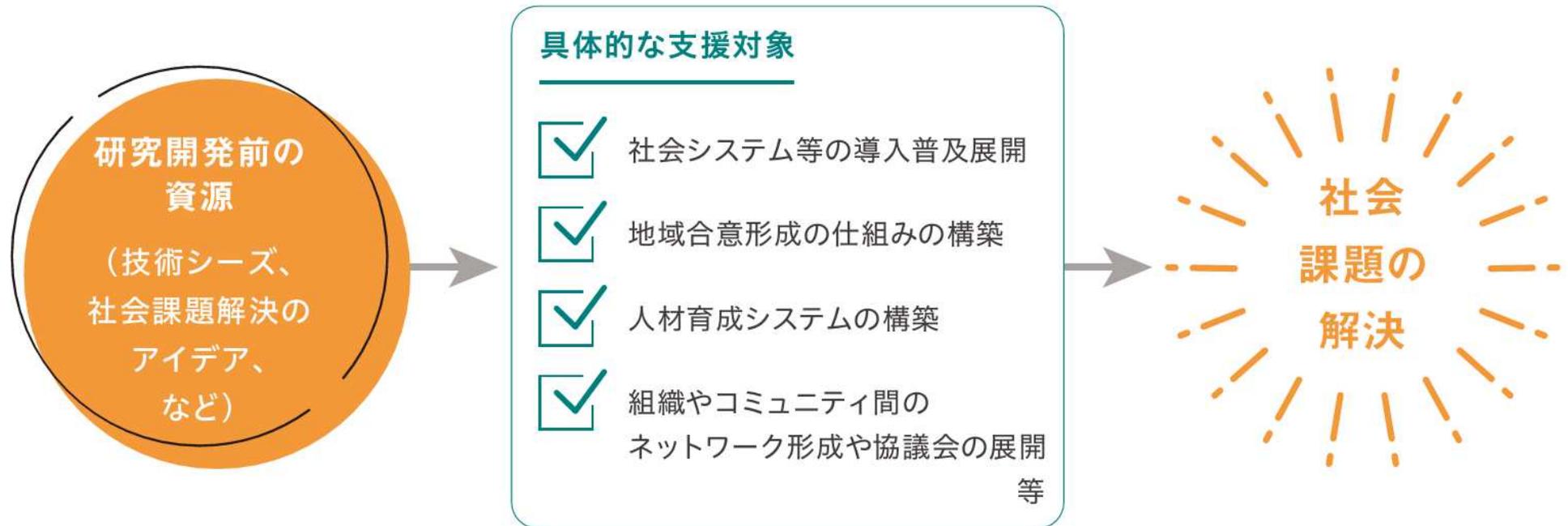
STIを活用して**特定の地域における社会課題を解決し**、その成果を**事業計画**にまでまとめ上げ、国内外の**他地域**に**展開可能なソリューション**として**提示**すること。

- 外部環境や科学的知見を起点とする、“**Outside-in**”
- 目標から逆算してなすべき事を考える、“**Backcasting**”
- 技術ドリブンではなく技術シーズを基盤とした、“**ソリューション・ドリブン**”
- SDGs各目標間の相互関連や**トレードオフ、シナジー**に留意
- マルチステークホルダーとの対話を通じた**共創的研究開発**

プログラム総括 関 正雄

プログラムの支援対象

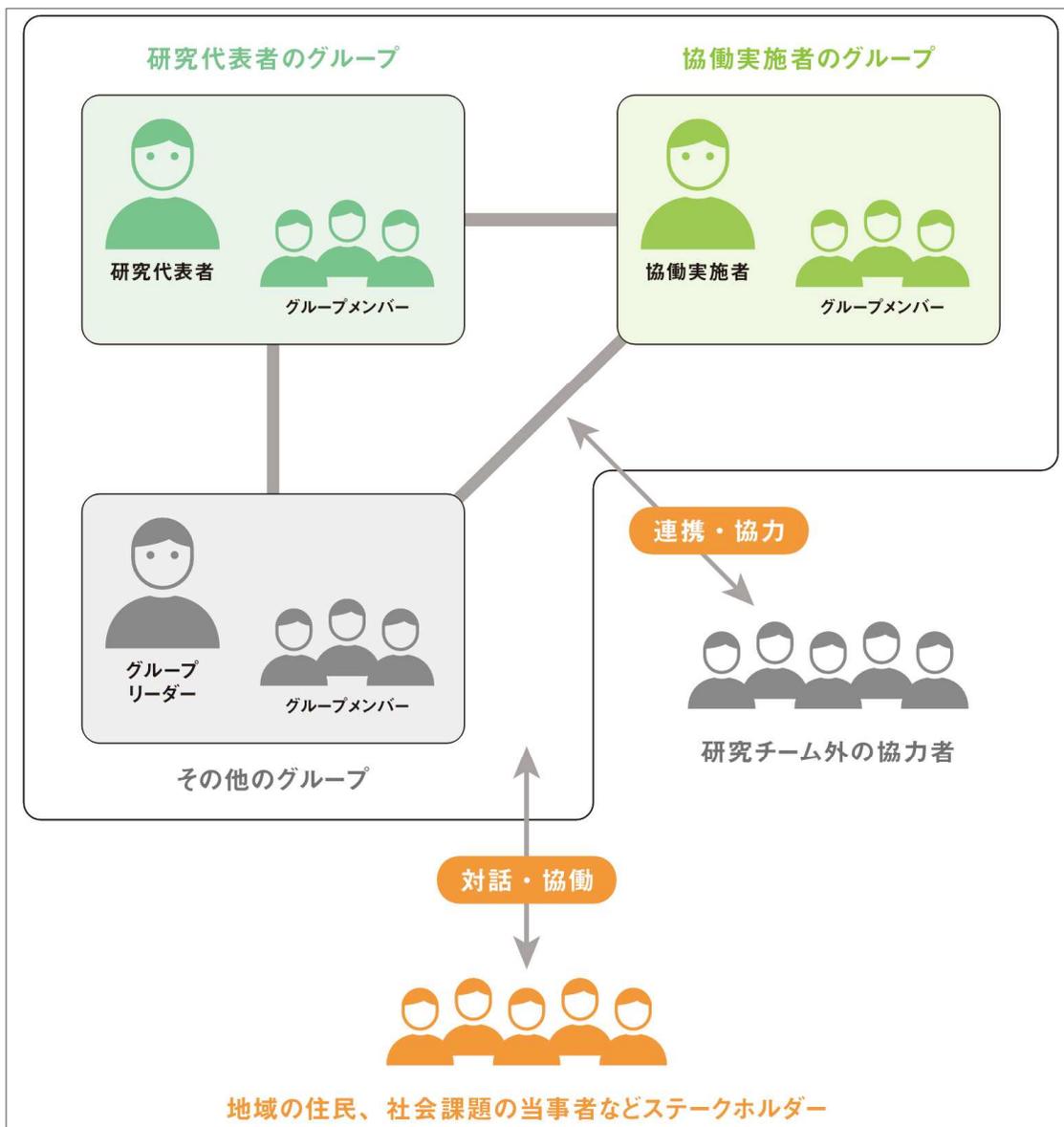
SDGsの達成に向けて、SOLVE for SDGsでは
社会課題を解決するための取り組みそのものを支援。



技術開発
1カ所での連携
現場づくり

≪ 普及に向けた「事業化」検証
≪ 協働のプラットフォーム作り
≪ しきみづくり+人材育成カリキュラムの試行

共創的研究開発の推進



研究プロジェクトの体制（イメージ）

研究開発チーム内での連携
+
社会課題の当事者
地域住民
行政など。

さまざまなステークホルダーを巻き込んだ、
対話・協働による
共創的な研究開発の実施

研究プロジェクトの責任者

共創的な研究開発をおこなうため、
研究代表者と協働実施者の2人が中心となってプロジェクトを推進。

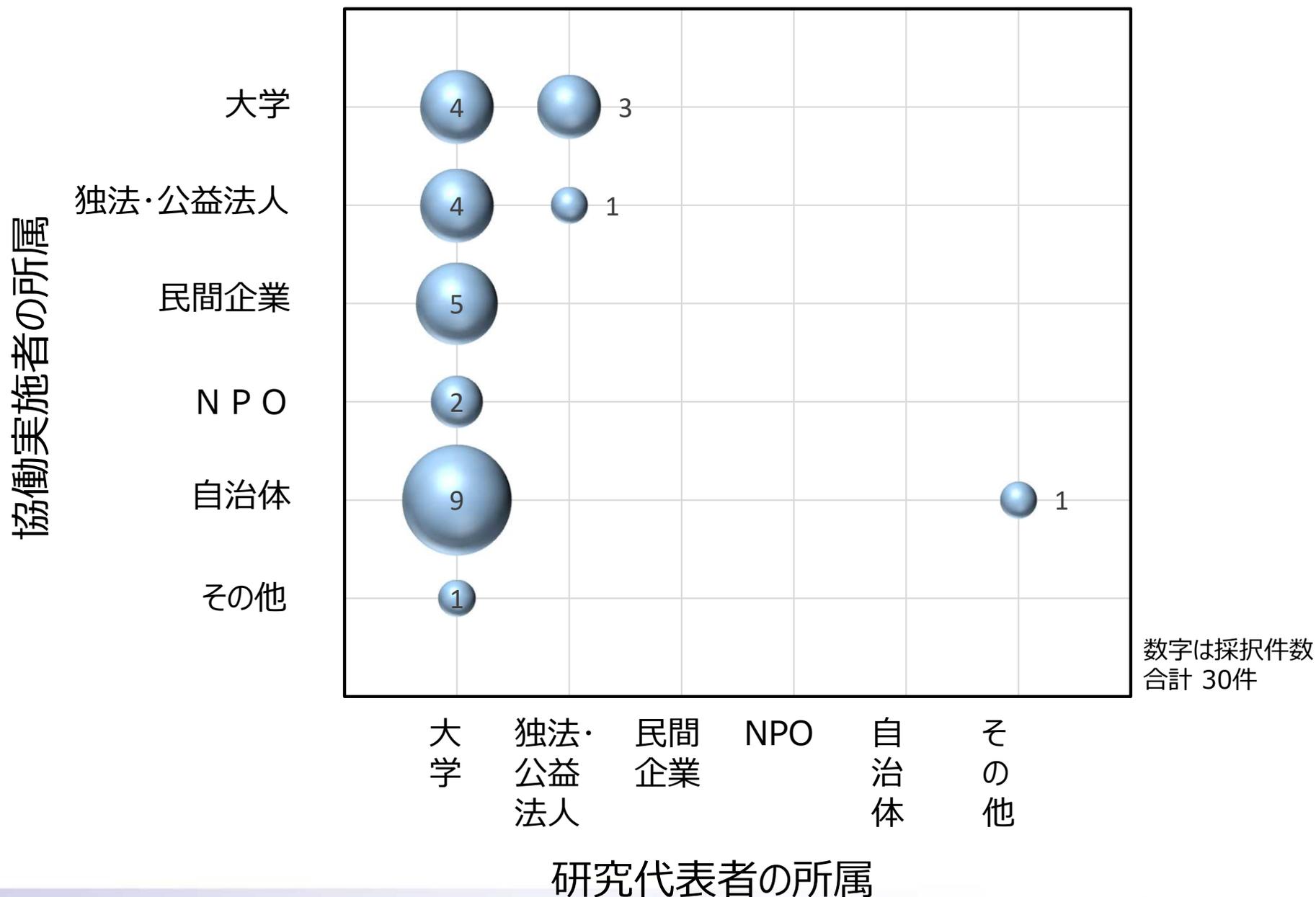


プロジェクト全体の責任者
研究開発の責任者。
研究開発全体に責務を負い、
プロジェクトを推進。
大学等の研究者や、協働実施者と
ともに課題解決のための体制を編成。

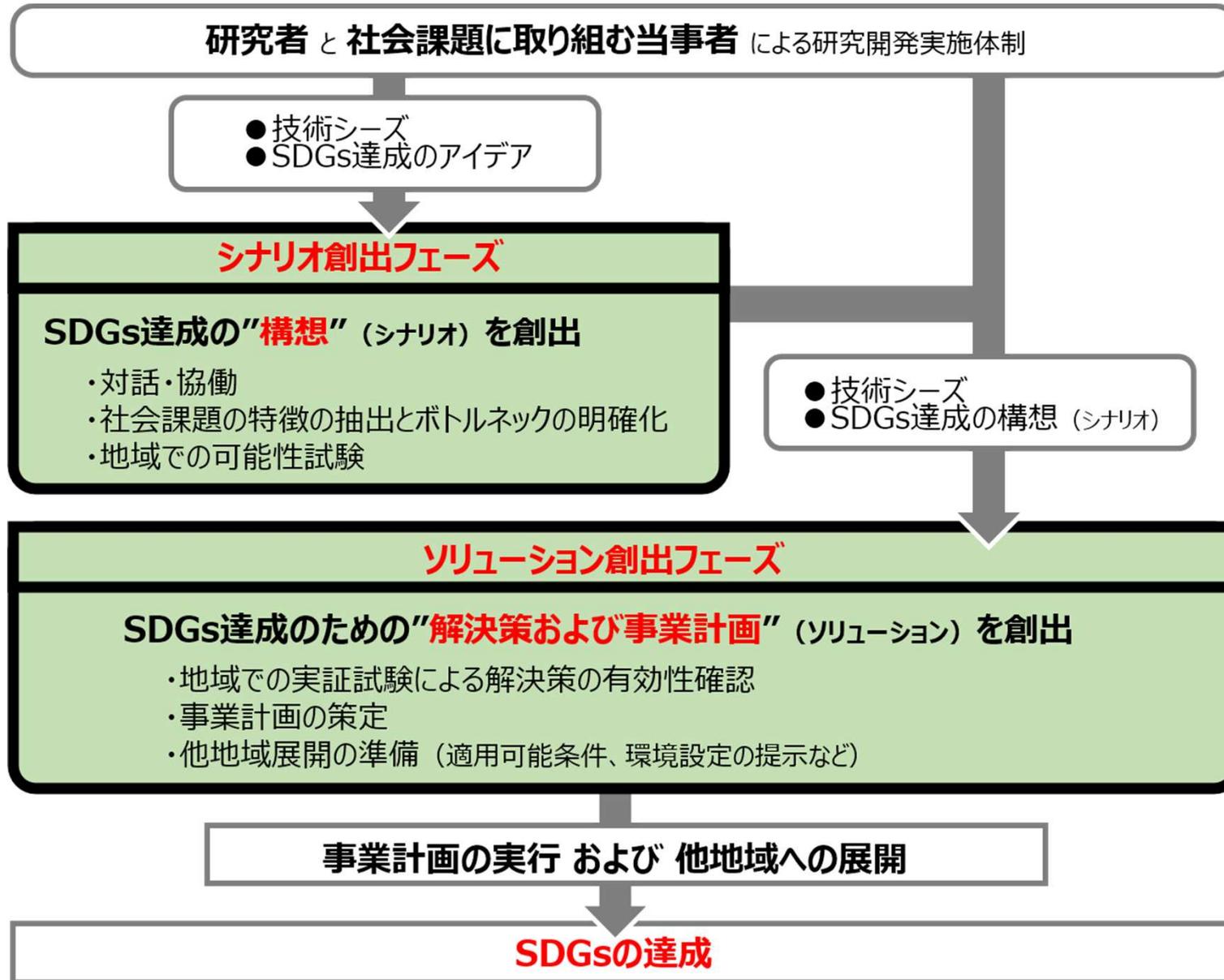


社会課題に取り組む当事者の代表
社会課題当事者の団体・組織の代
表が、協働実施者としてプロジェクト
に参加。

令和1～3年度採択課題(計30件)の所属組合せ



プログラムの仕組み



ご清聴ありがとうございました。